吉野川ファン通信

～ふる～ぶはフランス語で海にそそぐ大河のことです～
ひと、まち、自然、歴史、風景、吉野川をとりまく様々な表情をみなさんにお伝えします

ふる～ぶ fleuve

VOL. 75
2006/5

contents

巻頭特集 吉野川アラカルト 1
吉野川に魅せられて ～写真家 宮武 健仁さん～
ふる～ぶ編集部がおじゃましま～す。 4
吉野川を活用した 総合学習の推進について（座談会） 4
今月の表紙イラスト 四国のみずべ八十八カ所 4
大歩危・小歩危
ふる～ぶめいと通信 5
空海をたどる いやしの道ウォーク
ららら エッセイ 6
吉野川と日本酒
ふる～ぶインフォメーション 6
みんなでつくろう
「ぼくらの水辺再発見マップ」大募集
よりよい吉野川づくり 7
第12回 第6回 吉野川堤防強化検討委員会
ふる～ぶひ・ろ・ば 7
編集後記・プレゼント

吉野川に魅せられて ～写真家 宮武 健にさん～

清冽な水の流れ、きらきらと光る水面、竹林と青い空、広がる棚田、水苔の中から流れでる一筋の流れ、源流の白い世界.....

ページをめくると、飛び込んでくる吉野川の光景。四季おりおりの美しい表情をとらえた写真は、みずみずしさにあふれ、私たちのふるさと吉野川は、こんなに美しいのだと、感じさせてくれます。

プロフィール
宮武健仁（みやたけ・たけひと）

東京工芸大学工学部写真工学科卒業
1995年より、徳島に帰郷し、吉野川の写真を撮りはじめる。
現在宮武写真工房代表
日本写真家協会会員
写真集『四季紀伊』『清流吉野川』
個展「四国三部『吉野川の四季』」など

～写真との出会い～

これらの写真を撮ったのが、写真家宮武健仁さん。吉野川に魅せられて、吉野川を撮り続けている写真家です。もともと写真を始めたのは、小学4年生の時、徳島市内の東新町のアーケードにあるおもちゃやさんで、今の使いすてカメラの原型のようなものを買ったことから。当時、八万に住んでいた宮武さんは、家の近所の田んぼや、田んぼに水をいれる水車、園瀬川などの写真を撮り、子どもながらに、写真の世界の楽しさに魅せられていったそうです。高校生の時には、高文祭の県代表になったことも。

大学を卒業後、和歌山の写真処理機器メーカーに就職。休日や、勤務時間外を利用して、紀伊半島の自然の風景を取り始めました。胸まで雪に埋もれながら、片道5時間かけて歩き写真を撮りにいったものの、あと一歩で命の危険を感じ、引き返したこともあります。「その先には、30mの崖があり、これを上ると求めていた風景があると分かっていたんですけどね」と宮武さん。撮影は、いつもひとりで、まさに、自然との闘いでもあります。

～吉野川へ～

そんな宮武さんが、勤めていた会社を退職し、帰郷して吉野川大橋を走っていたときのこと。河口の川幅が1km を超えるこんな大きな川が、町の中を流れている。これをテーマに取り組んでみると面白いかもしれない。いったい源流は、どこなんだろう。思い立ったが吉日。宮武さんは、準備を整え、源流へ。季節は、冬。高知県と愛媛県境の瓶が森に発する源流地域は、雪に閉ざされた真っ白な世界。どこまでも透明な水。静寂と神秘の世界。渓谷を上り、やっとたどり着いた源流は、岩と岩との間から流れ出る小さな流れ。これが、あんなに大きな流れとなるのか。と感動を覚えました。

～吉野川に向かい合う～

その時から、吉野川に向かい合う日々。険しい山があり、谷があり、はげしい流れ、おだやかな流れ、山村や町もある。様々な表情を見せてくれる吉野川。そんな吉野川と向かい合って思うのは、四国は、ひとつ。吉野川は、下流から、上流までつながっている。

「吉野川源流域で、そんな意識を持って、森を守っていこうとしている人たちに出会いました」と宮武さん。

一滴の水が四国を作り上げていく。宮武さんの写真を見ていると、そんなメッセージが伝わってくるようです。四国は、川もあり、海もある。これからも、四国の水にまつわる原風景を撮影していきたい。宮武さんが、水と向かい合う日々は、続いていきます。

おおらかで、のびやかで、笑顔の素敵な宮武さんは、まさに、吉野川のような方でした。

宮武さんの写真講座

宮武さんに吉野川での写真の撮影の仕方についてワンポイントアドバイスをしていただきました。他の場所で撮影するときの参考にもなりますよ。

景色の撮影のポイント

- 良いところだけを撮るという気持ちを持つ。
- 吉野川は広いから、目に見えるものすべてを撮影しようとすると、収まりがつかなくなる。
- 手前にポイントをもってくる。
- 水平線や橋の部分などを横の線となるようなものを真ん中にもってこない。1/3位がベスト。
- 川面の美しさを表現したければ水面を2/3位に、また夕焼け空や面白い雲を強調したければ空を2/3にすると引き立つ。
- まっすぐ撮影したつもりが、いざ確認してみると、被写体が斜めになっていることもよくある。デジタルカメラはすぐに確認ができるので、必ず撮影した写真を確認する。

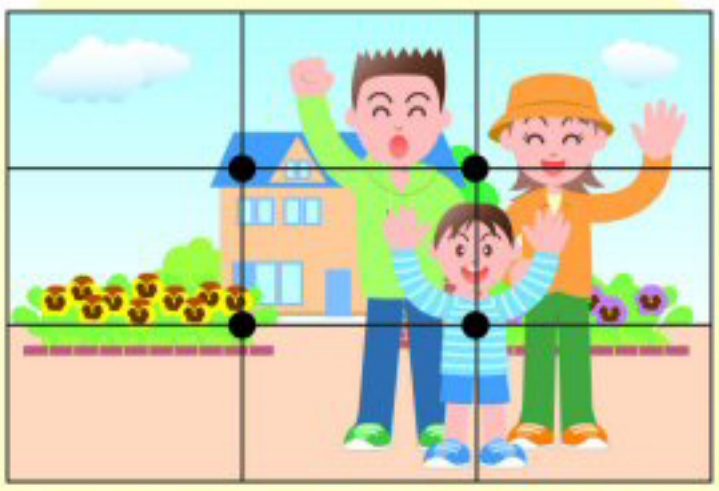
人を撮影するときのポイント

- 頭のまんなかに何かが刺さっているように見えるので、道路標識の棒などが、頭の中心を通るような形にもってくるのは×。
- 首の横を橋が地平線や、橋が横ぎっているのも×。
- 目線が向いている方を広くとる。

悪い例

せっかく川岸に前景になる菜の花があるのに、道路ぶちから立ったまま撮ったことにより、何もポイントがない。漠然として構図にしまりがない。

黄金分割



シャッターを押す前に画面全体を確認する。この黄金分割にあわせてこの線に合わせたあたり（1/3や2/3など）に景色や人のポイントを合わせるとバランスがよい。

良い例

前景の菜の花によって奥行きや雄大さを表現し、まとまり感がある。花の高さと同じになるように目線を下ろして自分が動きながら撮影することも必要。

四国のみずべ八十八カ所」フォトコンテスト審査員として感じたこと

「四国のみずべ八十八カ所」をテーマに、開催されたフォトコンテスト応募総数917点。その中で徳島県内のみずべ八十八カ所である21カ所に応募された写真は233作品。この審査員の一人として、フォトコンテストにたずさわった宮武さん。「審査をさせていただいて楽しかったです。色んな切り口があって、それぞれの水辺に対する思いが伝わってきました。写真を見ただけで愛着が伝わってくるのです。何度も行ったことがある場所でも『こんな表情もあるのか』と、新しい発見の連続でした」

四国のみずべ八十八カ所水先案内人の一人でもある宮武さん。「徳島県外の方々に四国を知ってもらいたいですし、足を運んでいただきたいと思います。お遍路さんを巡る方々にも併せてみずべ八十八カ所を巡ってもらえたら嬉しいです。吉野川は東西に流れているので、河口から朝日が登って夕日は上流に沈む。他にはこんな川は少ないですよ。他にもそれぞれの水辺に魅力があります。四国に住んでいる皆さんにも水辺をいろいろ見て知ってほしいと思います。」

写真家として、水先案内人として、宮武さんの話を聞き、故郷、徳島の良さを再発見しました。

※淡路サービスエリアで4月中旬まで四国のみずべ八十八カ所フォトコンテストが開催されていましたが、今年の夏も徳島市で各賞に輝いた写真を紹介する作品展を徳島市内で開催予定です。

吉野川を活用した総合学習の推進について(座談会)

現在、徳島河川国道事務所では、河川事業の一環として、子どもたちに、郷土を流れる吉野川や流域を知り、関心をもってもらうため、総合学習において利用して頂けるような学習内容の提供や資料の作成等について検討しています。今回は、「吉野川を活用した総合学習の推進について」と題し、教育現場に携わっている先生方との座談会を、2月12日(日)に開催しました。

国土交通省では、文部科学省・環境省と連携し「川を活かした環境学習・自然体験活動」の推進を図っており、その一環として「水辺の楽校プロジェクト」を行っています。平成14年4月から小中学校で総合的な学習の時間が設けられたことから、川を素材にした環境学習の時間をより多く取り入れることが可能となりました。徳島県内では、吉野川沿いに「山川バンブーパーク(吉野川市)」、「ぷぷるパークみかも(東みよし町)」がオープンし、環境学習や自然体験の場として利用されています。古代から、川のあるところで人々の生活が営まれ、農業や産業、文化などが発展してきました。

吉野川を学習の題材にすることにより、流域に育まれた自然、文化、風土などを学ぶことにもなり、故郷を知り、生きる力を育む事にもなります。このコーナーでも、小学校を訪問し、川や水辺に関する環境学習への取り組みや、子どもたちがどのような事を感じ、実践しているのかについて紹介してきました。

今回は、吉野川流域の小中学校の先生、12名に参加をしていただきました。

座談会では、全国や吉野川流域で行われている総合学習の取り組みの紹介、100校から回答をいただいたアンケート集計結果、総合学習ツールの教材開発・活用についてなどが話し合われました。

先生方から、「他の学校とも連携し、広がりをもった学習をしたいが、なかなか実現できていない」「冊子などで、4年生以下も理解できるような資料がほしい」「学習の成果を多くの方々の前で発表する場を設けてほしい」といったような教育現場での生の声を聞くことができました。吉野川の上流域から下流域の先生方に出席をしていただいたことにより、それぞれの地域によって特色を活かした川との関わり方、学習の取り組み方をしていることも分かりました。

徳島河川国道事務所では、今後もこのような座談会を行い、吉野川を活用した総合学習の実施を支援、推進していくとともに、河川愛護月間をはじめ、吉野川で開催する行事や作成する資料などの情報提供を行い、より多くの先生や子どもたちに、吉野川に親しみや理解を深めていただけるようにしていきます。

アンケート集計結果

今月の表紙イラスト　四国のみずべ八十八カ所

88 Watersides in Shikoku

四国地方整備局では、21世紀に残し、地域が誇ることのできる四国のみずべ空間を選定する「四国のみずべ八十八カ所」を平成13年9月から、1年間に渡って募集し、平成15年に決定しています。ふる～ぶでは、西山欣子さんによる表紙イラストにて、「四国のみずべ八十八カ所」をご紹介していきます。

No.9 大歩危・小歩危

何千万年にも渡って作り出された美しい渓谷美は、吉野川きっての景勝地。夏の新緑、秋の紅葉と、四季を通じて、多く観光客が訪れます。両岸の怪岩を眺めての吉野川の舟くだりも楽しみの一つです。

「四国のみずべ八十八カ所」の詳しい情報は、http://www.skr.mlit.go.jp/kasen/mizube88/ まで

ふる～ぶめいと通信

ふる～ぶめいとのみなさんは、
吉野川が大好きな吉野川ファンの集まりです。

ふる～ぶめいとの活動は、吉野川や、吉野川流域の吉野川に関する身近な情報をふる～ぶに提供することにより、吉野川に親しみや、関心を持っていただいて、吉野川ファンの輪を広げていただくことを目的にしています。

めいとリポート

空海をたどる いやしの道ウォーク
〈吉野川が満喫できるコースです〉

吉野川市
今中　忠重さん

吉野川の北岸を歩いてきたお遍路さんは、阿波市市場町10番札所切幡寺を打ち終えると南下し、吉野川最大の中洲の善入寺島を通って川島潜水橋を渡り、吉野川市に入り、鴨島町11番札所藤井寺へ向かいます。この間10kmは、吉野川を眺めながら、のどかな田園地帯を歩くいやしのコースです。

ところが、11番札所から、神山町12番札所焼山寺への13kmは、遍路道随一の難所で、三度の登りと二度の下りを経るいわゆる「遍路ころがし」と呼ばれる山道です。木々の合間から吉野川が一望でき、疲れをいやしてくれます。

この遍路コースは、1200年前空海が歩いた時の自然がそのまま残っているとされ、この道をお遍路さんだけでなく、みんなに体感してもらおうと、実行委員会ができ、山道コースは、平成6年に「最後まで残った空海の道ウォーク」、吉野川を渡る平地コースの方は、平成11年に「四国三郎をまたぐ空海の道ウォーク」の名で、ウォークラリーが始まりました。毎回県内外から、500人を越える参加者があります。

実施日は、毎年5月の第3日曜日で今年は、5月21日です。参加受付は、4月中に終わっていますが、詳しいことは、吉野川市商工観光課「空海の道ウォーク事務局」☎0883-22-2226にお尋ねください。

RaRaRa Essay vol.12

吉野川と日本酒

ふる～ぶめいとの安原多恵子さんが
季節にまつわる様々な話題を文字とイラストでつづります。

日本酒作りに欠かせないもの。それは、良質のお米と豊富で清澄な天然水。

灘の酒は特に有名だが、他にも、新潟や秋田、九州では鹿児島、熊本にもおいしいお酒があると聞く。

水量豊富な川があり、緑豊かな平野が広がるという酒作りの条件を満たしている吉野川周辺にも、おいしい地酒があって当然と思える。我が家のすぐ近所には、甘口のまろやかな口当たりのお酒を作る酒屋がある。他にも徳島市内だけでも5軒余りの造り酒屋があるし、吉野川を上流へたどれば、まだ20軒からの造り酒屋があるという。「やっぱりな」とうなづく。一般に日本酒は、淡麗辛口が多いと聞くが好まれるのは甘口か辛口か、どっちだろう。私は甘口がいい。

ところで、この「甘口、辛口」は何で決まるのだろう。調べてみると、糖分の比重や酸度で決まるそうだ。酸度が高いと味が濃くなり、甘味が隠されるため辛口となる。又、糖分の比重で決まるのが日本酒度で、こちらは比重が高ければ甘口、低ければ辛口となる。

日本酒は、普通酒、純米酒、本醸造酒の基本に三つに分類され、その上に吟醸酒が加わる。そのうち普通酒を除く三つが特定名称酒と呼ばれる。普通酒とは、できたお酒に醸造アルコールや調味料を加えたもので、これが日本酒の大半を占めている。おいしく飲むには、吟醸酒や純米酒は冷やすこと。燗をするとせっかくの香りが飛んでしまう。燗をするなら本醸造酒を人肌(35℃)くらいにすれば旨味も香りも残るらしい。私？ 私はやっぱり冷やかなあ。

私が花便りを書かせていただくようになって早三年余り。下手な絵と拙い文章乍ら、読んでいただけましたこと、とても有難く思っています。ありがとうございました。

安原　多恵子　板野郡藍住町生まれ。徳島市在住。短歌「松籟」「徳島短歌」「女人短歌」を経て現在「塔」所属。歌集に「さ緑の風」。

ふる～ぶ infomation

「川の日」制定 10周年記念

みんなでつくろう

『ぼくらの水辺再発見マップ』大募集

あなたの住むまちの川や水辺を歩いてみると、お気に入りの遊び場や歴史や文化のわかるスポットなどがたくさんあるはずです。
そんな水辺の歴史や文化を学びながら、お気に入りのお散歩コースの入ったマップをつくって、全国の皆さんにあなたの住むまちを紹介してください。

応募概要

◆参加対象
中学生以下のお子さまが対象ですが、おとなの方が協力していただいても結構です。個人での参加以外にグループでの参加も可能です。
※学校や地域、家族など、みんなでつくってください。

◆応募要項
①模造紙などA0(841mm×1189mm)サイズ以下で作成してください。
②写真、散策路、おすすめポイントの紹介メッセージなどをたくさん盛りこんで構成してください。
③応募に際してはマップの裏面に貼付票を貼って、PR文とあわせて5月31日(水)までに下記事務局まで送付してください。

◆募集期間
2006年4月1日(土)～5月31日(水)【必着】

送付先・お問い合せは

徳島新聞社企画事業部「ぼくらの水辺再発見マップ」事務局
〒770-8572 徳島市中徳島町2丁目5
TEL/088-655-7326　FAX/088-626-1885
E-mail/tokushin-event@topics.or.jp

審　査

◆審査の流れ
①全国47都道府県ごとに地方大会審査を実施し、最優秀賞1作品、優秀賞3作品を選出し表彰。
②各地方大会の最優秀作品は全国大会審査へ出品。
③全国大会審査では全国47都道府県から寄せられた代表作品を審査し5作品を優秀作品として選出。

◆審査時期
①地方大会審査/2006年6月上旬頃
②全国大会審査/2006年6月中旬頃
③最　終　選　考/2006年7月8日(土)
(「川の日」フォーラムにて)

◆審査結果の発表
全国大会/国土交通大臣賞ほか…2006年7月8日(土)「川の日」フォーラムにおいて発表
地方大会/最優秀賞ほか……各地の地方新聞紙面にて発表

◆賞
全国大会/国土交通大臣賞1作品(表彰状、10万円相当の賞品)
優　秀　賞……4作品(表彰状、7万円相当の賞品)
地方大会/最 優 秀 賞……1作品(表彰状、5万円相当の賞品)
優　秀　賞……3作品(表彰状、1万円分の図書カード)

詳しくはこちらのホームページをご覧ください。 http://www.chihoushi.com/map

主催/「川の日」実行委員会、各地地方新聞社、全国地方新聞社連合会　後援/国土交通省、(社)日本ウォーキング協会、日本教育新聞社、共同通信社 ほか

Let's make better Yoshino river together.
みんなでつくろう。吉野川。

よりよい吉野川づくり

第12回 第6回 吉野川堤防強化検討委員会

3月23日　ウェルネス徳島

このコーナーでは、
吉野川河川整備計画についての
取り組みについて、ご紹介していきます。

今回の委員会では、地震について、現況堤防の安全性照査、強化工法の紹介、浸透・侵食・地震についての強化工法の組み合わせ例の紹介、堤防の維持管理方法、最後を迎えるということで、吉野川堤防強化対策の総括が行われました。

その結果、徳島河川国道事務所で、選定した手法による吉野川、旧吉野川の各断面での安全性照査では、吉野川は、地震による堤防の変形（沈下）は、ほとんどなく、また地震後の河川水位に対しても、現在すでに行われている対策工で、充分対応できることから、現在のままで、対策終了とすることとなりました。また、旧吉野川は、地震により、川側（堤外側）の基礎地盤が液状化し、堤防が川側に沈下するため、追加の対策工法を必要とすることとなりました。その工法としては、場外側に、鋼矢板を1列追加し、2重矢板とすることにより、最も大きな堤防の沈下の低減効果を得られることが分かりました。最終的な対策工は、詳細検討による数値の変化に着目した評価を行ったうえで、決定することとしています。

また、総括として、浸透については、漏水実績のある検討対象区間について、左岸14.9km、右岸27.9kmについて調査、その結果、対策が必要な区間は、左岸12.7パーセント、右岸が21.9パーセントとなりました。侵食については、岩津より、下流の有堤区間である左岸34.8km、右岸36.8kmに対し、左岸25.2km、右岸21.8kmの区間について、安全性が充分とはいえない結果となりました。

今後の対応方針としては、今回の照査結果および、被災履歴、被災規模、現在の護岸の有している安全度などを総合的に判断し、必要な箇所については、緊急性の高いところから、実施していくこととなりました。

最後に山上拓男委員長（徳島大学工学部教授）より、「なにもないところから、始まった委員会も会を重ねるごとに、さまざまなことがあきらかになってきた。これから南海地震対策について、出来るだけ早く方向付けができるように祈っています」とお言葉をいただき、委員会を閉じました。

第6回吉野川堤防強化委員会名簿（敬称略）

山上	拓男	徳島大学工学部　教授
澤田	勉	徳島大学工学部　教授
岡部	健士	徳島大学工学部　教授
石川	浩	国土交通省四国地方整備局・徳島河川国道事務所長

よりよい吉野川づくり（吉野川河川整備計画）
については、徳島河川国道事務所のホームページで
詳しくご紹介しています。
http://www.toku-mlit.go.jp/

ふる～ぶひ・ろ・ば

ふる～ぶ編集後記

～感謝を込めて～

さて、私たちふたりは、今回を持って、ふる～ぶをいったん、卒業することとなりました。この6年間の想い出は、ここには 書ききれません。みなさん、本当にありがとうございました。 また、いつかお会いできますことを祈りつつ。

（や）（か）

戌の干支プレゼント

ふる～ぶのイベントなどでお世話になっている石井町の佐藤潔さん。昨年の酉の竹細工に続いて吉野川の竹を使って作られた戌の干支の竹細工を持ってきてくださいました。犬が赤い手まりの上に乗ろうとしているかわいい作品です。今回は、奥様の敏江さんも一緒に作って下さいました。繊細な作品ですので、編集部までとりに来られる方に限らせていただきます。1名の方にプレゼントします。ご希望の方はお葉書またはFAXをお寄せ下さい。締め切りは、5月31日（水）です。

〒770-0803 徳島市上吉野町3-35 徳島河川国道事務所内
ふる～ぶ編集部　竹細工プレゼント係
FAX:088-654-9177

770-0803　徳島県徳島市上吉野町3-35　国土交通省四国地方整備局 徳島河川国道事務所内ふる～ぶ編集部
TEL: 088-623-6085　FAX: 088-654-9177
e-mail: fleuve@sk-toku.jp

PRINTED WITH SOY INK
地球に優しい大豆インキを使用しています。
R100
この冊子は再生紙を利用しています。